

縄南中通信



平成28年 5月 6日 発行

2016年度 第2号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校

校長 日比野功

縄手南小中一貫施設分離型義務教育学校（平成31年度開校予定）教育理念

「縄南道」により20才の成人式には

当たり前の行動を当たり前に行うことができる人の育成

「ありがとう」と感謝の気持ちを素直に伝えていますか？

～シドニー五輪女子ソフトボール銀メダリスト 田本博子先生の講演から～

縄手南中学校では、4月当初に毎年「縄南道」集会を持ち、日本一を目ざす糧となるお話をお聞きする機会を持っています。昨年度は前大阪学芸高校野球部監督の川村誠一先生をお招きし、「一生懸命の大切さ」についてお話をお伺いしました。一昨年は現在独立リーグ、ゼロロクブルズの監督で、元近鉄バファローズで活躍された、当時“いてまえ打線”の中心選手であった村上隆行氏をお招きし、「夢を掴む」というお話をお伺いしました。今年度は3年前にもお招きしたシドニーオリンピック女子ソフトボール銀メダリストで、北京オリンピックでは日本女子チームが上野投手を擁し金メダルに輝く中でコーチとして指導され、現在は京都市の公立中学校の先生をされている田本博子氏をお招きし「感謝の気持ち」についてのお話をお伺いすることができました。

田本先生はご自身が現役の頃、日本チームの田本選手の全力疾走に対して世界中の方々がブラウン管を通して拍手を送ったという逸話があるほどの「努力の人」、「一生懸命の人」です。田本先生が、体力的にも技術的にも実績においても一流とはほど遠い自分が、諦めないで夢に向かって取り組んできた結果、五輪という夢の舞台に立てたという経験伝えることで、生徒たちにも「自分にもできるかも知れない」と本気で思って夢に向かって挑戦して欲しいと願ってられます。また社会人チーム時代、控えの自分が練習できるのは夜の10時頃からという時、ある日、1人の先輩がお風呂上りにやって来て、トスをあげ自分の練習を手伝って下さり、その気持ちに泣きながらバットを振ったというエピソードを伝え、自分の努力だけでは決して夢の舞台に立つことができない忘れられない場面であると「感謝」の気持ちを伝えて下さいました。また、自分がソフトボールに打ち込めたのは、仕事をしながら、家族の食事を作って洗濯もしてくれるお父さんやお母さん、友人、先輩、先生、周りの人たちすべての方々のお蔭であり、北京代表チームでは、日常当たり前になってしまっていて気づかずに過ごしてしまっている事に対して、「感謝」の気持ちを「ありがとう」という素直な言葉で表そうとされたそうです。自分が置かれている状況を見つめ、ホテルやグラウンド、使っているバットやグローブといった道具、そしてその道具を気持ちを込めてつくってくださっている方々がいること、その他にも食事やベッド等にもすべて気持ちが込められていること、また練習場所を提供していただいたり、それらを準備して下さっている方々への思いなど、すべてのことに対して「感謝」の気持ちを持ち、「ありがとうございます」と言葉で表したそ



うです。北京五輪で金メダルという結果を残すことができ、帰りの飛行機の中で機長さんのはからいで、「この飛行機には金メダルに輝かれた日本女子ソフトボールチームが搭乗されています。」とアナウンスがあったそうですが、自分たちは「おめでとう」と言われると思っていたら、「ありがとう！」「感動をありがとう！」と言っただけで、「自分たちが大切にしてきた『ありがとう』が返ってきました。」とお話しされたことがとても印象に残り、「縄南道」においても感謝の気持ちを素直に伝えることは大切にしていきたいと感じました。今回の田本先生の「縄南道」集会を単なるイベントで終わらせないように、生徒諸君はこの話を心で感じて、自分自身のツールとして前進して欲しいと思っています。田本先生は「みなさん、1日に何回ありがとうと言っていますか？」と質問され、「ぜひ、ありがとうと伝えて下さい。」と話されていました。

「意識改革」→「行動の改革」→「習慣の改革」が「結果」を大きく変えることになる！

0.1秒にこだわり、「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」を習慣とせよ！

「縄南道」において、「勝因」とは、「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」であり、「敗因」とは、「いい加減」「適当」「だいたい」であるということは常に伝えています。また、今すぐ誰にでも実行できる「勝因」につながるものが「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」であるということも常に伝えています。「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」は「人格形成」の要因であって、単なる「あいさつ運動」ではありません。従って、「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」に対する「意識」はかなり大切です。「意識」を高く持てば、それに伴って「行動」が変わります。また、その「行動」が継続され「当たり前」となれば「習慣」が変わります。この「習慣」の変化が「結果」へとつながることとなります。常にレベルが高い集団は、言われなくても常にこの「意識」が高いので、当然レベルの高い「結果」を創り上げています。「意識」の低い集団は、レベルの高いことができませんから、まずは「意識改革」を行う必要があります。「意識」の高い集団からすれば当たり前のことが、「意識」の低い集団には全くできず、実行するのにとてもハードルが高いということが多くあります。「縄南道」では日頃の学校生活での様々な場面で、この「意識」を高く持つということを常に心がけ、「日本一」の学校づくりに挑戦しています。50mを8秒で走る選手がいたとすれば、この選手は1秒で6メートル以上走れ、0.1秒では60センチ以上を移動することができます。50mを8秒というのは特段ハイレベルな記録ではありませんが、それでも、このたった0.1秒が勝敗を分ける大きな0.1秒となりうるが多々あります。また、たった1秒が命を救うことになるかも知れません。日頃の授業や学校生活の場面で、常にこの0.1秒にこだわる「意識」があるのとないのとでは将来大きく結果が変わることとなるでしょう。部活動でも当然同じです。この0.1秒に意識し、こだわることができている様子を見事に表した言葉が「だらだら」ではないでしょうか。「だらだら」な集団は絶対に奇跡を起こすことはできませんし、日本一にも絶対なれません。「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」の「ダッシュ！」はまさしくこの0.1秒にこだわる様子を示しています。

前述で、田本博子先生の全力疾走に対して世界中が拍手を送ったと伝えましたが、田本先生がまだ出場の機会を与えられていない補欠の頃でも、どんな指示に対しても「はい」と返事をして、「ダッシュ」でその行動を起こすことを心がけられていたそうです。「バットを片付けておけ」と言われたら「はい」と返事をして全力疾走で行動して片付ける、「ランナーコーチをやれ」と言われたら「はい」と返事をして全力疾走でコーチボックスまで移動し、全力で声を出すということを実行されていたそうです。「縄南道」で心がける「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」は大きな夢の実現につながる第一歩です。

クラブ等の主な記録

準硬式野球部 第70回大阪府春季選抜中河内大会 3位